

はばたき

2015. No. 81

一 体 感



- その想い P 2
- 光風みどり園 納涼祭 P 3
- 南三陸町を訪れて P 4



その想い

船橋市光風みどり園 施設長

齊藤航二

今号の表紙をご覧いただきましか。優雅に豪勢に職員全員でハワイ旅行？だと良かったのですが、残念ながら違います。これは、一つの行事終了後の記念撮影です。この時は裏方に徹した者もおおり、ここに写っているのはその一部の職員です。

大久保学園は歴史を重ね、その規模も機能も地域に根差して大きな存在となりました。私が奉職させていただいた頃は、施設長以下すべての職員を合わせても25名位でしたが、現在はその10倍以上、総勢260名を超える大所帯となっています。

大小合わせて5つの施設と2つの相談支援事業所、16ヶ所のグループホーム。50名だった利用者も、相談支援事業まで含めると、本当に多くの皆さんが学園のサービスの利用を望まれています。

とかく人が増えますと、「その設立理念が薄らいでいくのでは」というお話をよくお聞きしますが、その理念は、オリンピックの聖火のように職員一人一人の胸の中に受け継が

れています。

「障害を持つていても、大人である以上は働こう」大久保学園の創設当初からの理念です。それを根幹に、学園は当初から四本柱と言われた、他の施設には見られない独特の指導を展開しました(現在は『指導』は死後ですが、当時のまま記述させて下さい)。

自分のことは自分で出来るようにと炊事や洗濯といった生活指導。8時から5時まで働ける体力づくりを旨とした体育指導。名前を書いたり時計が読めるようにと学習指導。そして働くことの大切さを知る作業指導。

四十数年前「障害者を働かせるなんて」と各方面からいろいろと叩かれましたし、実際に課題が無かったわけではありませんが、この理念は大きく花開き、現在では国の重要施策の一つとなっています。

同時に、就労した障害者が少しでも長く働けるようにと「あすなる職業相談所」を立ち上げました。学園

の生活指導と同じく、洗濯や掃除といった生活面の支援から、雇用主との連絡調整、余暇の充実を目的としたレクリエーションの企画等々、障害者一人一人の実状に合わせて支援をしていました。

これは、就労と同じく現在の福祉施策の重要課題の一つ「相談支援」の先駆けに他なりません。誰もが思いもしなかったことを、創設者大久保實先生はその重要性に気づき、いち早く取り組んでいたのです。

大久保学園の創設者である大久保實氏がやろうとしていたことが、紆余曲折を経てここに認められた、いいえ、誰よりも先駆けた取り組みに、やっと社会が、時代が追いついてきたのです……。

なんて少し大きく出させていただきましたが、同じようなことを考えていた方達はきつといらっしやったことでしょうか。

しかしながら、多くの人が庇護の対象としか見ていなかった障害者を、あるいは厄介者としか見られていなかった障害者を、「何かしらの支援があれば、この人達は私達と何ら変わるところは無い。それ以上は一途で真面目だ。だからこの人達をばかにしてはいけない」と實氏の父は子供に教え、實氏もまた、父の会社で働く障害者の方達と寝食を共

にし、それを実感して育ちました。この生い立ちが、創設への原動力となったのです。

この崇高な理念を、誰が忘れましよう。自らの実体験に基づいたこの想いに、誰が異議を唱えられましよう。確かに時代は変わり、いつの日かまた「やっぱり障害者を働かせるのはおかしい」と言う時代が来るのかもしれないし、残念ながらすべての障害者が同じように働けるわけではありません。

それでも、障害者を庇護の対象としか見ない人達と「何かしらの支援があれば何ら私達と変わらない」と考える人達では、どちらが本当に障害者の人権を護っていると言えるのでしょうか。

四十年以上に渡る実績は伊達ではありません。大久保学園は、これからはますます地域に必要とされて大きくなっていくと思います。四十数年前の創設者の想いは、大久保学園の理念となり、今日の障害者福祉の最先端となっているのです。この想いと実績を、私達はもつともつと広めていかなくはなりません。それが大久保学園創設者とその理念を支えて下さった皆様への恩返しと考えます。

光風みどり園 納涼祭

7月18日(土)平成27年度納涼祭を光風みどり園園庭で実施しました。朝は台風通過後の快晴でしたが、本番が近づくとつれ雲の様子が怪しくなり「あれ……」小雨が降ったり止んだりの天候で本番を迎えてしまい、私の小さな心臓は止まりそうでした。「どうしよう、どうにもできません。」

今年の納涼祭は、例年より少しだけ雰囲気を変えました。皆様に「楽しかった」と言っていただけのようなより良い納涼祭にする為に、新しく変更した点を紹介します。「夏だ祭りだ楽しむぞ」というテーマを設けました。服装は例年のハッピを着用せず、アロハシャツ、Gパンに統一しました。受付の位置を駐車場側に変更しました。舞台では紅白幕を使用せず、サーフボードや観葉植物を置いて全体的にハワイアン風にしました。南国の花ハイビスカスを中心に飾りつけましたが、日本の納涼祭には提灯が付き物ということで、ハワイと日本の融合でミスマッチをベストマッチにした会場となりました。いかがだったでしょうか？

また、今回もたくさんのご協力をいただきました。船橋東ライオンズクラブ様にはヨーヨー釣り、保護者の皆様・元職員にはポップコーンの売店協力をさせていただきました。新しい屋台に皆さん大変盛り上がりましてい

ました。高根台ハワイアンサークル様はフラダンスの出演で、ハワイの風を吹かせてくださいました。船橋市からは、船えもんも会を盛り上げてくれました。大久保学園サクシードは素晴らしい演奏、利用者の皆様には素敵な歌声をいただきました。また職員の余興パフォーマンスはいかがだったでしょうか？皆様のご協力、本場にありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。

当日は、出店での買い物を楽しんでいる方、チケット分全部食べるぞと張り切っている方、カラオケの順番をまだかまだかと待っている方、納涼祭の雰囲気を楽しむながら家族で楽しんでいる方、保護者様同士で会話に花を咲かせている姿などが見られました。その人その人の楽しみ方で楽しんでいただけたいと思います。何より一番に良かったことは、皆様が無事安全に納涼祭を楽しまれ、怪我や事故がなかったことです。これも利用者さん、保護者様及び関係者様のおかげと感謝しております。

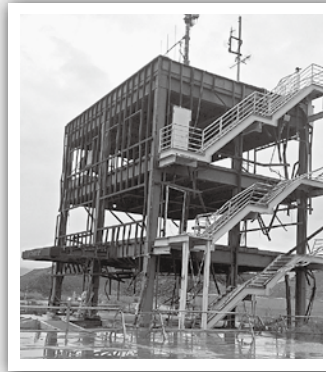
利用者の皆さん、今年の納涼祭は楽しかったですか？来年はもっと楽しい納涼祭にしましょう。最後に、利用者の方々、保護者様及び関係者の皆様本場にありがとうございました。(宮寺)



南三陸町を訪れて

6月に南三陸町の地を訪れる機会がありました。様々な地域の中でも強く心に残っているのは、児童104名中74名の犠牲者を出した大川小学校での光景でした。

我々が市民ボランティアのガイドの方に説明を受けている最中、犠牲者の祭壇を整備し続ける保護者の方の姿はとても言葉では表現し難いもので、私自身、一児の親として、施設の職員として、絶対に忘れてはいけない、そして、繰り返してはいけない光景だと感じました。



ガイドの方が「至る所にメッセージは残されている。目を凝らし痕跡を見逃さず我々が受け取ることが大切。」とおっしゃっていたのが心に残っています。波は、寄せて返すものです。波によって連れ去られたものについて目や耳にする機会が多いですが、押し寄せたもの、波が運んできたものに触れ感じる機会はとても貴重なので、これからに活かしていきたいと思います。(大杉)



初めて東日本大震災の被災地に足を運びました。現地の人達は「だいぶ復興した方だよ」と仰っていました。テレビや写真で見ていた光景とは格段に違ってました。粘土のように曲がった太い鉄骨、花が沢山添えてある慰霊碑……その全てがリアルで言葉が出ませんでした。

現地を案内して頂いたボランティアの方々も被災者でその言葉の一つ一つが重く感じました。しかし、そこに暗さはなくとても前向きで、常に200%の力で生きています！と感じる程エネルギーがありました。

天災を防ぐのは不可能に近いかも知れませんが、大事なはその後の事。その瞬間から何が出来るかを考え行動する事が大切だと教えて頂きました。首都直下型地震が発生した場合、地理的に船橋はサポートに回る都市になる可能性があるとの事。これから千葉で、船橋で何が出来るか考えていかなくはならないと感じました。(武藤)



憶 記 る 辿

笑顔がみたい

みどり園 石川 由香



「福祉の仕事をしていて偉いわね」そう声をかけられると「別に偉くないけど」と思っています。この仕事は、奉仕でもなんでもない、「仕事」であり「専門職」なのだと思いで日々仕事に臨んでいます。

思えば、漠然と「福祉の仕事がしたい」と思ったのは小学6年生のとき。なぜかその1年間、街中で車椅子に乗っている人を良く見かけました。膝にのせている物が地面に落ちてしまい、何気なく拾うと「ありがとう」と言われ、子ども心に「ありがとう」と言われるのが嬉しかった……それが第一歩でした。

その後も、その思いは途切れることはありませんでした。中学、高校と他に就きたい職業が浮上してきていてもいはずなのに「福祉に携わる仕事がしたい」という思いだけは変わらずにいました。

大学時代も福祉系の大学に行き、老人福祉関係の仕事に就く友人が多い中、私は「みんなとは違う分野がいい」と思うようになりました。そんなとき、とある知的障害者の通所施設へ実習に行き、「これかも」と思いました。なぜそのときそう思ったのか思い返せませんが、職員の皆さんが利用者の方と一緒に、とても楽しそうに過ごしていたことがとても印象に残っています。

「みどり園」に勤めて16年。いろんなことがありました。自分が担当した利用者さんが立て続けに亡くなることもありました。外出先で「死んでやる」と言つて、手賀沼に向かつて行く利用者さんを必死に止めたこともありました。これからいろんなことがあると思います。しかし、どの支援員も考える「利用者さん1人1人が笑顔で過ごせるにはどうしたらいいか」という思いはずつと変わらないと思います。いろんな意見がぶつかり合うこともあるでしょう。でも「思い」は一緒であることを忘れずに、そして「専門職」として、もっと知識を深めていくためにも、まずは「積読」状態の本を読んでいくことから始めていきたいと思います。

母の背中

光風みどり園 田中 邦昌



私には3つ年齢の離れた姉がいます。姉が中学校進学の際、当時の小学校の校長から「特別支援学級（当時は養護学級）」への進学を勧められ、母が憤慨している姿を身近に見て、衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。父が出張で長い期間家を空けていたということもあり、それまでの我慢が爆発したようなものだったのでは、と今は思います。

小学校時代より、「姉が人と少し違う」ということを何となく肌で感じつつも、「障がい」というものをまったく理解していませんでした。何が起きているか分からずに、姉がいじめられて帰ってくる家飛び出して相手と喧嘩になることもありました。

中学校の社会体験実習で「入所更生施設もくせい園」の現場実習に触れ、「こんな仕事もあるんだ！」と、一気に進路に対する視野が広がり、何かと機会を見つけては遊びに行き、行事のお手伝いをさせて頂いたり、一緒に作業をしたりすることもありました。

大学の現場実習も終え、「いよいよ就職先を決めなくては」となった際も、アルバイトで培った経験を活かしつつ、そこで雇用されている障がいをお持ちの方をフォローできるような仕事や、行政に携わって広い視点から関われる地方公務員、まったく別業種の福祉とはまた違うチャレンジしてみたかった仕事、様々な選択肢を持って「社会福祉法人大久保学園」の施設見学に向きました。そこで「光風みどり園」の存在を知り、施設独特の閉鎖的な感じがまったくしなかったことに感銘を受け、何とか就職にこぎつけ今日に至ります。

そもそも福祉の道を志すきっかけは、福祉分野にパイプを作り自分の見識を広げつつ「姉を、そして何より母を少しでも手助けしたい」という単純な理由でした。

今も金銭面の援助ぐらいの親孝行しかできておらず、「母の背中」に追いつくことは遠く及びませんが、一步一步、「親の想い」に近づけるよう、それぞれの「家庭にさまざまな道徳があることを念頭に入れつつ、これからも支援にあたっていきなりたいと思います。

それぞれの施設だより

大久保学園

単独短期B棟がりニューアル

約5か月間かけた改修工事を終えて、いよいよ居住が開始されました。この建物は、単独棟の名の通り集団生活から少し距離を置いて個別の居住スペースを提供出来るものです。在宅生活からの短期入所利用時にいきなり集団の生活に入る事に不安を持つ利用者も多く、事業開始当初から非常にニーズが高いものでした。これまで5名だった定員を10名に増やしたことで、高まる要望に出来るだけお応えしていきたいと思えます。

棟内に入った利用者は、「前と違う！綺麗！」と驚きながら喜んでくれました。新調したカーテンも利用者と一緒に選んだところもあり、私自身もこの工事が自分のこととして嬉しい思いです。利用した人からは「掃除しているよ！」と声を掛けられ、担当者としても清潔な環境を維持出来るように気合が入ります。(中島)



ふなばし工房



農園芸班は主に野菜の種蒔きや収穫、市場などへの出荷準備など行っています。又、6月から8月にかけては佐倉市にある果樹園へ

ブルーベリーを収穫に行っています。暑い中の収穫はとても大変ですが利用者・職員共に汗をかきながら頑張って作業を行っています。農園芸班は利用者が安心して安全に作業を行えるよう日々支援をしています。又、作業を通じて技術の向上や、掃除や洗濯などの自立をする事も目的としています。利用者には簡単な作業だけでは無く細かな作業も提供し、個々のスキルアップにも繋がっています。利用者一人一人に適した作業を提供し、目標を持って毎日仕事に取り組んでいます。これからは秋に向けて野菜の収穫やイベントの準備等で忙しい毎日になると思いますが、目標や課題に一生懸命に取り組みんでいき利用者が今より活き活きとした活動を送れるよう支援していきます。(杉田)

光風みどり園

光風みどり園では新芽が出来る5月から木の成長が著しい10月までの期間、毎年、植木の剪定の仕事を請け負っております。

元もとは、花の栽培を主として始めた園芸作業班でありましたが、「花の買付と同時に花壇に植え付けも行つて欲しい」「植え付けの他に草取りをして欲しい」「草取りの他に植木の剪定をして欲しい」そして「剪定と同時に植木の消毒も」と言った具合に少しずつ注文が増えてきました。口コミで広がった剪定作業ですが、今では公共事業の年間管理も請け負うことになりました。それならばと庭園管理士の通信教育を受け、勉強している職員も出てきています。

「ガーデニングデザインから造園全般、グリーンカーテン等、お庭の事なら何でもご相談ください。見積もり無料です」

そして、なによりも光風みどり園に来園する皆さんが気持ちよく利用できるような環境美化に努めていきたいと思えます。(渡辺)



みどり園

みどり園での取り組み

みどり園での生活単位は「ユニット」です。20名程の利用者を15名程の職員がケアさせて頂いていただく。その中で生活は完結しますが、あくまで生活のこと。日中活動や行事ではユニットの垣根を越えて様々なことを共有します。

昨年度はユニット間での協力体制が未熟で、支援にも露呈していたことを痛感しました。

しかし、今年度は「みんなでやり遂げよう」を合言葉に取り組んでいます。報告・連絡・相談を大事に守りながらも打ち合わせをする。利用者のみなさんの時間を大切に、当たり前前のことを当たり前にそして丁寧に行う。みんなで施設を作り上げていく喜びを享受していきたいと考えています。

法人の理念のもと、藤森施設長の想いが集結したみどり園がよりよい施設となるように、利用者と保護者のみなさんに「ここでよかった」と仰って頂けるように職員一丸となつて頑張ります。

ぜひみどり園に足を運んでください。職員一同お待ちしております。(福田)



地域生活支援センター



毎年、特別支援学校から多くの生徒さんが実習という形で大久保学園を利用されます。同じ年齢の人と過ごす学校のクラスとは違い、様々な年代の利用者の中に入って作業体験を行うことは、我々の想像以上に不安が一杯だと思えます。そんな中でも親御さんほどの歳の利用者に優しく声を掛けられ、共に時間を過ごすことで打ち解けていく生徒さんが殆どで、実習が終わる頃には、「遊びにおいで」「また来るね」と別れを惜しむ姿が良く伺えます。

実習終了後、お礼の手紙が生徒さんから届いたことを利用者へ伝えると、大変喜んで、作業に対する意欲が一層沸いています。学園としても日常と違った人とのお付き合いの貴重な体験をする場と捉えており、生徒さんの来園を楽しみにお待ちしております。(山田)

相談支援事業

相談支援事業に携わっていると、他法人の日中活動事業所にお邪魔させて頂き、話を伺う機会が多くあります。こういった経験はこの職ならではのものです。日々、勉強させて頂いています。

就労系の事業所や生活介護事業所・入所系の事業所など、理念や取り組みの方向性に特徴はあっても、共通して言えるのは職員の方々の仕事に対する真摯さと利用者に対する優しさであると感じます。どちらの事業所もそれぞれに取り組みの歴史があり大切にして来た想いに触れて、私自身も身の引き締まる思いがしています。

これからも、諸先輩方に教えて頂きながら、本人と家族にとって暮らしやすい生活探しのお手伝いをさせて頂けるよう精進していきたいと思っています。(小澤)



グループホーム

今回は食事支援についてお伝えしたいと思います。

先日は、リクエストの多い「ハンバーグ」に職員がチャレンジしました。手ごねから始めてグツグツと煮込む様子を利用者も興味津々で眺めています。盛り付けにも凝ってレストラン風に仕上げると「これが食べたかったの」と喜んでくれました。

暑い日が続く中、スイカ割りイベントも大盛況でした。最近はこのくらい機会が無かったのもこれも大騒ぎです。屋外でスイカをかぶりつくって意外と経験がないもので、おっかなびっくりという人もいたようですが、楽しい時間となりました。

これからも季節感を大切にしたいと思います。(大黒)



通所



通所班は本格的に室内班と協力しながら雑誌の付録を作る作業を行うようになり、3年目となりました。付録の受注する量も徐々に増えて来ています。利用者皆さんは工程に慣れてきたという事もあり、様々な部材にも対応出来るようになりました。人それぞれに得意・不得意はありますが、本人の特性や長所を理解して取り組みやすさを重視し、工程を細かく分けて提供しています。例えば個別スペースで集中して取り組む人、流れ作業で他の利用者と協力しながら行う人、その人に合った工程を提供し作業支援を行っています。また出来る作業だけでなく、本人にとって新しい工程にも挑戦して作業の幅を広げていけるような環境を整え提供しております。その中にも皆さんが楽しく和気あいあいと作業ができるように、私たち職員も楽しく作業を行います。(眞崎)

はばたき



アルプスの山小屋



大久保学園の敷地内には、自動販売機が4台設置されています。どうしても空き缶が気になってしまう利用者があり、衛生上何かしらの対策が必要になってきました。

空き缶の回収とのイタチゴッコでは埒があかず、上席からは「工夫がない」との喝が入り、少々遅まきながら一念発起。木工班所属の職員を中心に英知を集め、外觀が無機質ではなく機能的かつ楽しい感じをコンセプトに製作を始めました。

写真の通り、アルプスの山小屋をイメージしたゴミ箱です。煙突部から空き缶を捨てるようになっており、皆さんも遊び心で空き缶を捨てている様です。捨てた後も誰も気にする様子がなく大成功です。ご希望があれば、木工班で受注を承りますのでご相談ください。

ただ、ちよっと製作日数がかかり過ぎて販売にならないかと自省しつつ……。頑張ります!! (飯田)

行事予定

大久保学園	
9/12	職員バレーボール地区大会
9/25~26	ソフトボール大会
10/8	FD大会
10月	産業医鶴沢Dr講演会 世話人研修会
11/3	学園祭
11/5	スポーツの集い
11月	地域交流フェスティバル 職員バレーボール県大会
12/2	芸能発表会
12/5	保護者会、利用者食事会
12/29~1/3	冬休み
ふなばし工房	
9/20	保護者会
9/6~7, 27~28	利用者一泊旅行
10月	明治神宮販売会 保護者個人面談
12/5, 12, 19, 26	忘年会
12/29~1/3	冬休み
光風みどり園	
9月	保護者会
9/27~28, 10/4~5, 12~13	利用者一泊旅行
10月	定期健康診断
12月	忘年会
12/29~1/3	冬休み
みどり園	
9月	日帰り旅行
10/18	みどり園祭
11/19~20	一泊旅行
12/22	クリスマス会
12/29~1/3	冬休み

寄付金

平成二十七年二月十日
〜平成二十七年七月二十七日

「後援会」

宮澤迪夫・平田チエ・其田鉄三郎
佐伯教理

「一般」

長谷川さよ子・野尻武生・霊友会

光風みどり園

平成二十七年
七月十八日

納涼祭お祝い金品

大新東(株)・(有)習志野製袋・河野美智江
(有)ウインマックス・わかたけ社会センター
(株)丸鈴 代表取締役 鈴木章浩
平川園・橋本宗子・佐伯教理・土屋なみゑ
船橋東ライオンズクラブ 会長 早川 隆
斉木信造

(敬称略)

ありがとうございました



私たちが広報委員
会はこの「はばた
き」に乗せて、お
伝えしたい事があ
ります。

それは、各事業所において「どの
ような特色のある活動を行っている
のか。」「どのような行事に参加して
いるのか。」「また、「どのような志し
を持った職員が働いているのか。」
という事です。皆様に楽しんで頂
ける広報誌を目指して、次号もお
届け致します。ぜひご期待ください。
(飯田)

はばたき

二〇一五 八一号

発行/平成二十七年九月
発行所/社会福祉法人 大久保学園
TEL 〇四七(四五七)二四六二
FAX 〇四七(四五七)四〇六九
URL <http://www.okkubogakuen.or.jp>
Mail shienka@okkubogakuen.or.jp
編集/大久保学園 広報委員会
表題書/大久保学園長 中原 強